



これから台風の季節

被害をギリギリに止めるには

火災は忘れた頃にやつてくると云いますが、別にそんな約束があるわけではありませんから、忘れぬうちに天つばややつてくることだけあります。その被害を防ぐには、むろん治山治水による本的な手立てが必要ですが、气象台からの注意報や警報をいち早くキャッチして、効果的な事前対策を立てるにより、被害をギリギリに止めるところもあるべきでないことはありません。これから当分災害の季節、黒い天魔がやつて来ぬうちに、めいめいの手でできる注意や手立てをして、しましよう。

風 雷

平均風速が20㍍をこすと被害は急に大きくなります。普通の台風では、中心付近は風速50㍍程度ですが、台風の大きさによつては、中心から数キロはなれた所でも20㍍以上の暴風雨になることがあります。進路に当たった地方はもとより、かなり遡くへだつた地方でもゆだんはありません。強風注意報・風雨注意報・暴風雨警報などの出されたときは

①雷電、ハイ、木々、エンツなど

一 風速と被害

風速	風压	被 壊 の 程 度
10 m/s	12.0 kg/m²	雨ガサがこわれます
15	27.0	りつけの悪い壁がつぶれたり、風に向かう供は飛んでしまいます。
20	48.8	木の枝葉が吹き飛んでしまいます。
25	75.0	木の枝葉が吹き飛んでしまいます。
30	108.0	木の枝葉が吹き飛んでしまいます。
40	142.0	木の枝葉が吹き飛んでしまいます。
50	300.0	木の枝葉が吹き飛んでしまいます。

を補強すること。

②窓や戸が飛ばれて、家中へ風が入る。室外もろくに家が倒れますから、戸戸など弱いところは裏面に補強を加えること。

③タンク、カわら、看板などが風に吹き飛ばされ、これが頭上に落下して死傷した例が多いから気をつけること。

④木の元に注目し、失火のないようにすること。

警報が出されたら

①外出や旅行はなるべく中止し、とにかく登山や海水浴はせつたいやめること。

②ラジオなどの気象情報を気につけ気象のもうようどうなつているかを正確に知ること。

③災害を生じたときの用意に、ローラークや機械電などを用意しておこうこと。

大地震のときの心得

①近くに広場があればそこへ避難すること。

②家中では、丈夫な家具の下などに身をよせるうこと。

③地盤のそれよりも、その後で起る火災の方が恐ろしい。せつたいに火の気をなくすこと。

雨戸は、木の木造は倒れる

木造は倒れる

